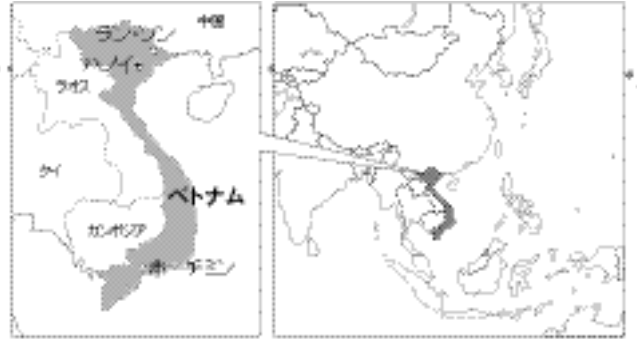


ユニセフ子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Socialist Republic of Viet Nam

ベトナム社会主義共和国



チュアンの学校



「今日は何個あるかな？」学校につくとチュアンは真っ先に鳥小屋に向かいました。「今日はたくさんあるぞ」チュアンは新鮮な卵を割れないように気をつけながらカゴに入れます。「ラン先生、おはようございます。今日は15個もあったよ」「まあ、たくさん。みんながきちんと世話をしてくれているからね。ありがとう」ラン先生がにっこりすると、チュアンはちょっと照れくさくなりました。

ベトナムの首都ハノイから北東に150キロ、

中国との国境に近い山岳地帯、ラン・ソン省の村にチュアンは住んでいます。チュアンたちの学校ではにわとりを飼っています。裏庭には野菜を育てる畑もあります。学校の子もたちが育て方を教わって、毎日みんなで世話をして大切に育てているのです。

毎朝早くやってくるチュアンは卵を集める係です。育てた卵や野菜は村の人びとに買ってもらいます。そして、そのお金はチュアンたちの大切な宝物を買うお金になるのです。



ベトナムにはベトナム語を話すキン民族の人たちが多く住んでいます。でもチュアンの住む山岳地帯では、キン民族以外の少数民族の人びとがくらしています。少数民族はそれぞれの言葉や習慣を大切にしている、チュアンもふだんは自分の民族の言葉と話しています。

山岳地帯ではそれぞれの集落が離れており、学校や保健センターはあまりありません。チュアンの村にも学校はありませんでした。チュアンは家から8キロも離れたとなり村の学校に通っていましたが、村には学校に通っていない子もいました。その上、学校の授業はすべてベトナム語だったので、チュアンは先生が何を言っているのかほとんどわからず、学校に行くのが楽しいと思うことはありませんでした。

こんなチュアンの村にユニセフの支援で学校

ができたのは3年前のことでした。教室がひとつしかない小さな学校です。教室に入ると、向きを変えて置かれた黒板が3つあり、それぞれの前に机といすが置かれています。

学校がはじまった日、ラン先生は「この教室では3つの黒板を使って3年生、4年生、5年生と一緒に勉強します。わからないことがあったらいつでも聞いてください」と、ベトナム語とチュアンたちの民族の言葉でゆっくりと話してくれました。「わあ、先生もぼくたちと同じ言葉で話してくれるんだ」チュアンはびっくりして、それから急にうれしくなってきました。

ラン先生はベトナム語で授業をしますが、少しでもわからなさそうな顔をすると、そばまできて、チュア

ンにわかる言葉に言いかえてくれます。チュアンは少しずつベトナム語もわかるようになり、勉強がとても楽しくなってきました。違う民族の友だちともベトナム語で話せるようになり、なかよくなりました。



5年生になったチュアンが一番好きな授業はベトナム語です。教科書はすっかり読んでしまい、もっといろいろな本が読みたい、とラン先生にお願いするほどです。こんなように、ラン先生は「もっとたくさん本を用意するにはどうしたらよいでしょうか？」と校長先生や役場の人に相談しました。

ある日、学校に本棚とたくさんの本が届きました。わーっとなら声をあげて集まったみんなにラン先生は、「この本棚はユニセフからおくられました。本はみなさんが育てた野菜や卵を売

たお金で買いました。みんなは読みたい本を読んでいいのよ。でも本はみんなの宝物だから、きちんと本棚にもどしましょうね」と話しました。

チュアンはさっそくカラフルな表紙の本を手にとってみました。自分たちで育てた卵や野菜がこんなにすてきなものになるなんて...、チュアンはうれしくてたまりません。

次の日からチュアンは少し早く登校し、授業の前に本を読むことにしました。ある朝、ラン先生は卵を持ってきたチュアンに「チュアンは本が好きね。将来は何になりたいの？」とたず

ねました。チュアンは「ぼく、子どもたちにいろいろなことを教えられる先生になりたいんだ」と目を輝かせてこたえました。

